

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393000266		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム豊田松ヶ枝		
所在地	豊田市松ヶ枝町2-34		
自己評価作成日	平成27年 8月16日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2393000266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2393000266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホーム運営理念:「誰か」のことは「自分」のことと考えよう。「誰か」がやるだろうの「誰か」に自分がなろう。  
この運営理念を掲げた背景として、チームの不協和音、不適切なケアが日常的に見受けられたことがある。  
「介護とは何か」「認知症とは何か」「チームケアとは何か」を一から考え直し、日々の業務に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この1年は利用者本位の支援に立ち返るため、改善に改善を重ねた。管理者のリーダーシップの下、職員の長所を生かしたチーム作りを進めており、職員からの提案も多く実践に反映している。管理者の交代や職員の入れ替わりなどから家族が持ってしまった不安にも対処した。今期、運営推進会議を再開する事ができ、多くの家族が参加した。また、利用者の「思いや意向」を外出支援や日々の暮らしに反映させるため、介護計画や記録について工夫をしている。  
利用者本位の支援のため、「誰かは自分」のホーム理念を着実に一步一步実践に繋げているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの適切な運営、適切なケアの提供のため、必要な運営理念をたて、職員と共有し、実践につなげている。	管理者交代に伴い、ホーム理念の刷新を図った。「誰かは自分」の基本に立ち返り、利用者本位の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域資源を活用し、交流ができる機会を作っているが、日常的にまでは至っていない。	商業地区にあり地域の付き合いは買い物を中心となっている。よく利用するショップの店員や喫茶店のオーナーなどと顔馴染みである。	学校や託児所など、新たな社会資源の活用に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様や入居希望の見学者などに対して窓口を設け、「介護相談」として情報の提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様全体に情報共有をする場、またご家族様から貴重な意見をいただく場として、運営推進会議を活用している。	規定の回数には満たないがホームの体制を立て直し運営推進会議を開催した。家族の参加が多いのは待ち望まれていたためである。また地域福祉課や協力医、薬局が毎回参加し、話し合いの場となっている。	利用者や職員が参加することで、より一層充実した運営推進会議になることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一回、介護相談員が来訪し、情報共有している。 行政とのやり取りは、手続き上必要があるときだけに限られており、連携が取れているとは言えない。	市とは運営推進会議の議事録の提出など必要最低限のやりとりである。	市と連携することで、ホームがひとつの社会資源としての役割を持ち、社会貢献につながることに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為については、研修等を通じて、職員の理解を深めている。 現状、単独外出防止策として、玄関の施錠を行っているが、「施錠ありきのケア」ではないと職員に指導を行っている。	身体拘束の中で特にスピーチロックについて何回も研修や現場で指導を行い、現在は適切な声掛けができるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、職員の理解を深めている。 スピーチロックについては特にピックアップして研修の場を設けたが、まだ現場で見受けられることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修のテーマとして取り上げておらず、職員の理解は深まっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には約3時間程度の時間を掛け、解釈の相違が生まれないよう、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に対しては、ご意見やご要望をいただく機会を常に設けているが、外部者へ表せる機会は提供できていない。	管理者交代や職員の入れ替わりなどが原因で家族の不安があったが、この1年で関係が改善してきている。意見や要望を真摯に受け止め、一つずつ利用者支援に役立つよう努めている。	運営推進会議に参加していない家族に対してのアクションに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議の場を、主な情報共有の機会としている。	全体会議、時間をずらした二部制の勉強会、カンファレンスと月3回全員参加の場がある。顔を合わせて話し合い、出された提案はまず実践されており、みんなでホームを作り上げるチームケアの基礎とともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームだけに限らず、同エリア近隣のホームの人員不足となっているため、職員の労働時間の負担は多くなっている。本社は状況を把握しており、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修だけに限らず、外部研修の案内も積極的に行い、参加を促している。また、ホーム内研修については、現場の職員の力量に合わせた内容を準備し、管理者が講師となり行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他社の同業者との交流の場が持っている。職員に付いては、近隣エリアのホーム合同の研修の機会を設けているが、社内範囲に留まっており、同業者との交流の場は持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント等、ご本人の話に耳を傾け、少しでも不安を取り除くことができるような対応を心掛けている。 入居当初については、何よりもまずコミュニケーションを重要視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のから連携を取り、ご意見ご要望に耳を傾け、ご家族様の状態を把握することを心掛けている。ご本人様との関係構築と同様に、ご家族様との関係構築も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントや入居当初のご本人様の様子を観察し、状態把握に努め、適切なケアの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、入居者様ができることは積極的に行っていただき、「助け合い」の生活を心掛け、必要な存在であると感じていただけるようなコミュニケーションを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪を歓迎し、ご本人様との時間を大切にできるよう働きかけている。入居契約時においても、「介護者がどれだけ頑張っても家族の力には勝てない」と、協力が不可欠であることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方が来訪しやすいよう、ご家族様の了承をいただき、情報共有を行い、行事への参加を促している。馴染みの場所にお連れすることは取り組むことができていない。	友人や教え子と電話や手紙のやりとり、近所でお茶を飲むなどの支援をしている。馴染みの場所へ出掛けることは少なく課題としている。今後、利用者の行きたい・したいことを探しながら機会を増やしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で談笑されたり、一緒に家事に取り組むなど、一部の入居者様は良い関係が構築できているが、一方で、入居者間トラブルになりやすい関係もあり、対策を迫られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関退去になった方や、他施設転居となった方についても、面会を行い、状況の把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、入居者様のご要望に耳を傾ける姿勢を意識して取り組んでいる。	時間をみつけては利用者とコミュニケーションをとっており、話を引き出すよう努めている。本人や家族から直接話を聞く、日々の言動を記録するなど様々な方法で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや日々のケアの中で、入居者様の生活歴に関わる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、入居者様の状態を観察し、「何ができて何ができないのか」を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや日々の業務の中で、課題や適切なケアについて話し合いを行っているが、ケアプランとモニタリングには生かされておらず、ただ更新だけされているような状態となっている。	介護計画は3か月で見直しをし、ケアカンファレンスで月1回モニタリングをしている。記録漏れのないようにファイリング方法を改善した。	利用者の日々の記録が介護計画に反映されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、記録の重要性を研修を通じて職員の理解を深め、その日その日の入居者様の状態が把握できる記録作成に努めているが、ケアプラン見直しにはつながっていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームではできない、これまでやったことがないという感覚にとられることなく、「どんなサービスが必要か」をまず考えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や飲食目的での地域資源活用はできているが、地域交流という意味ではまだ不足している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の情報提供を行い、同意を得られた方についてはかかりつけ医の医療を受け、連携をとりながら支援を行っている。	かかりつけ医は本人や家族が選択でき、その際併せてホーム協力医についてメリット・デメリットを説明している。他科受診は家族対応だが、情報共有等漏れのない支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と連携を取り、また、かかりつけ医との窓口役として円滑な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の営業活動の中で、病院関係者とも連携強化を図っている。また、入院時には定期的に面会を行って情報収集し、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明し、同意を得ている。また、今後看取りの段階になっていくことが考えられる方については、かかりつけ医同席のもと、状態把握と今後の方針について、ご家族様と話し合いの場を設けている。	家族には利用者の日々の様子を細かく伝えることで、協力医を交え重度化や終末期に向けた適切な支援を行っている。協力医が職員に対して看取りの研修を行うなど、体制作りを進めている。	看取りを含め、職員に対してメンタルフォロー体制を進めることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、緊急対応の理解を深めている。また、各フロアには緊急対応チャートの掲示を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、職員の理解を深めている。消防訓練に地域住民の参加ができておらず、地域の協力体制は不十分。	火災想定避難訓練では、利用者を駐車場へ避難させている。また、非常食を実際に食べられるか試食している。年1回の消防署立会いでは危険箇所を改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や日々の指導の中で、適切なコミュニケーションについて理解を深めているが、一部職員にはまだ理解が不十分。	職員は「自分だったらどう思うか」を念頭に、利用者が選択する支援に努めている。特に入浴や排せつ等プライバシー度が高い支援については、利用者に合った声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の場面場面において、入居者様に自由と選択の権利を提供できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員配置と業務スケジュールの調整上、どうしても施設都合で動かざるを得ないときもあるが、一人ひとりのペースを大切にしなければならぬという意識を持ってケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にご協力いただき、好んで着用されていた衣類を準備していただいている。整容面においても、入居者様の自尊心を傷つけることのないよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の役割の1つとして、調理や盛り付け等に協力いただいている。また、能力を把握し、適切な食事形態やケアを行い、食事が負担となることのないよう取り組んでいる。	調理専門員が利用者の状態に合わせた食事を提供しており、職員が食事の支援に集中できる体制を整えた。季節のイベント食やおやつレク、外食を定期的に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼晩の3食の時間だけに限らず、水分が足りていないようであればこまめに水分摂取を促すなどして、1日の栄養・水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の能力を把握し、必要適切な口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用せず、可能な限り、トイレで排泄ができるよう、ケアに取り組んでいる。また、その方の排泄状況を把握し、個別に排泄ケアを行っている。	声掛け、誘導で日中はトイレで排泄するよう支援している。また、利用者全員の排泄記録を取っている。安全面から夜間のポータブルトイレ利用や、安眠のため夜用パッドの使用など一人ひとりに合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に下剤を使用せず、活動量の増加や水分摂取などを心掛けている。現在、全社的に乳酸菌摂取に取り組んでおり、便秘解消した方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日でスケジュールを組まず、その日その日で声掛けをして入浴していただいている。人員配置の都合上、入浴は午後の時間帯に限定されている。	週3、4回入浴の機会がある。利用者の体調や性格などに配慮し、その人に合った声掛けで利用者が気持ち良く入浴できるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安易に睡眠薬を使用せず、日中の活動量、排泄汚染の不快感など、他の要因からアプローチするよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更となる場合には、変更の理由、考えられる副作用、観察項目について、看護師から介護職に情報共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割提供や喫煙など、生活に刺激や楽しみを取り入れることができている方もいるが、役割や楽しみを提供できていない方が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	人員配置上、すぐにご希望に対応できないときもあるが、可能な限り、外出支援に努めている。ご家族様にご協力いただき、定期的に外食やお墓参りなどに外出されている方もいる。地域の方々との協力体制はできていない。	日課の散歩や近所の喫茶店、買い物に出掛けている。また、店の送迎バスを利用して団体で外食を楽しんでいる。家族の協力で誕生日や盆休みなどに出掛ける利用者もいる。	ホームは外出支援を増やしたいと考えている。今後期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力は不十分だが、財布に執着がある方は、ご家族様にリスクを承知の上で、ご本人管理で財布を持っていただいている。また、買い物時など、職員付添いで、レジでの支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご協力いただき、毎日のようにご家族様と電話されている方もいる。遠方のご親族などと電話で話される方もおり、電話を使用してのつながりは比較的取れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床での生活が主な方において、リビングは机と椅子、ソファしかないため、畳を設置し、過ごせるようにしている。快適な生活を送っていただくため、環境整備が課題としてあげられる。	リビングのソファや机など、動線を考え利用者が安全に移動できるようにしている。畳の設置は慣れ親しんだ床座の生活に対応したものである。また、清潔を保つよう毎日清掃を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士で過ごせる場は設けているが、共有空間で独りになれるような環境は作れていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に、できるだけ使い慣れた馴染みのある家具の持ち込みを依頼している。慣れ親しんだ環境を再現できている方もいれば、殺風景な空間となっている方もいる。	慣れ親しんだ家具、日用品の配置、布団の生活など利用者の今までの歴史を垣間見る居室作りをしている。居室の清掃を行う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわからない方には表示を大きくしたり、トイレやお風呂などは目安となるように表示や暖簾をつけている。台所の安全確保が課題となっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000266		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム豊田松ヶ枝		
所在地	豊田市松ヶ枝町2-34		
自己評価作成日	平成27年8月4日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム運営理念:「誰か」のことは「自分」のことと考えよう。「誰か」がやるだろうの「誰か」に自分になろう。  
この運営理念を掲げた背景として、チームの不協和音、不適切なケアが日常的に見受けられたことがある。  
「介護とは何か」「認知症とは何か」「チームケアとは何か」を一から考え直し、日々の業務に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が掲げた運営理念を理解し、実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての交流はできていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が窓口となり、活動されています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、管理者が主となって取り組まれています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、活動されています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学び、身体拘束のないケアを行っています。 玄関の施錠はされています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、職員同士で意見交換し、虐待につながることをしないよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解は深まっていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応されています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が主な窓口となっています。職員がご家族様から意見をいただいた場合は、すぐに管理者に伝えるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で、情報共有がなされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人が足りておらず、時間外労働もありますが、環境整備に尽力している姿勢は見て取れます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修や、外部研修に参加する機会が提供されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は持っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特にコミュニケーションを大切にし、ご本人様の声に耳を傾けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の家族様の対応は管理者が主に行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は特にコミュニケーションを大切にし、ご本人様の状態把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、介護されるという感覚ではなく、一緒に助け合って生活するという感覚で、日々のケアに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際には、ご本人様との時間をゆっくり過ごしていただけるよう配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にお連れすることはできませんが、馴染みの人とのつながりは保つことができるよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや家事を行う際など、複数の入居者様に関わりを持ちながら取り組むことができるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が主に対応されています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とコミュニケーションを取る中で情報収集に努め、得られた情報は職員間で共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とコミュニケーションを取る中で情報収集に努め、得られた情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人とコミュニケーションを取る中で情報収集に努め、得られた情報は職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は主にケアマネが作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、その方の1日の過ごし方や状態が把握できるような内容になるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームできることは何かと考えるのではなく、その方にとって必要なことは何かを考えて、意見を出すよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や買い物にお連れしたときなど、地域の方々と触れ合う機会を提供できるよう配慮しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と連携を取りながら、健康管理に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良時などには看護師に相談し、指示をもらって対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が主に対応されています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が主に対応されています。 看取りの研修については、ホーム内でも取り上げられ、学ぶ機会がありました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で学んだり、管理者、看護師から指導を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に参加し、有事の際に取るべき行動について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の立場に立って、コミュニケーションを取るよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の立場に立って、ご本人に決めていただく機会を多く作るように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合に合わせてケアを行うこともありますが、できるだけ入居者様のペースを尊重するように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方がお好きなお洋服を着ていただいたり、髪をセットする際はご本人に聞きながら好みの感じに整うように心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、食器洗いなど、家事ができる方については積極的に協力していただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、状態の把握に努めています。摂取量が不足しているときは、随時水分を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれに合った方法で、口腔ケアに取り組んでいます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様それぞれに合った方法で、排泄ケアに取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、日中の活動や水分摂取等で自然排便を促すよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの都合上、入浴は午後2時頃から午後4時頃までとなっています。お湯の温度や、お湯の量など、好みに合わせることができるものについては、個別に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠薬に頼らず、日中の活動量を増やしたり、尿汚染などによる不快感を減らすようなケアに取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は、管理者・看護師から情報共有がなされるので、その場で確認をし、状態の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を行っていただいたり、気分転換に散歩を行っていただくなどしています。ホームでの生活を退屈に感じられている方もいるようです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すぐに対応ができなくても、できるだけ外出できるように取り組んでいます。ご家族と外出される方も数名いらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと心配される方については、ご自身で財布を持っていたいただいています。買い物ときには、レジでお金の支払いを行ってもらう方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合は、電話でご家族様に連絡をとっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過剰な刺激となるようなものは共有空間にはないように配慮しています。床で生活される方は、リビングに畳を敷いて、過ごしていただくこともあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士で、リビングのソファに座り、よく談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれ居室の雰囲気が違っており、過ごしやすい空間となっていますが、中にはほとんど家具のない部屋で過ごしている方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やお風呂、トイレの場所がわかるよう目印をつけ、入居者様が混乱しないように配慮しています。		